

看護研究学会委員長
和歌山県立医科大学 保健看護学部
山口 昌子先生
以下インタビュー内容です。

◎今回、コロナ禍の社会情勢の中にも関わらず本学会が無事開催されました事、おめでとうございます。開催までの準備、さぞご苦勞なされたかとお察しします。
→まず、密を避けるために、今までは県立文化会館で開催されておりました看護研究学会を、初めてこちらとWebで開催する事を決めました。
また、zoomを使つての開催は初めての試みで、どうすれば上手く配信できるか検討し、何度もシミュレーションを重ねました。
令和2年度の春から夏まで、緊急事態宣言下のため委員会の開催も無かったので、再開された夏以降から月1~2回は委員が集まりました。
委員全員が、看護研究学会を成功させようと一丸になり取り組みました。

◎今までは口演の他、示説はポスターの掲示がなされていましたが、それについて今回はどう対応されましたか？
→昼の休憩時間にスライド配信を行い、対応しました。このスケジュールを組むのも工夫した点です。

◎Webと会場でのダブル開催が待つ意味について、お伺いさせていただきます。
→看護研究学会は各施設の皆さんが集い、学び合うことに意義があると思います。今年はダブル開催で会場に72人、Webで24施設145人の方が参加されました。Webのメリットもありました。
コロナ禍が今後終息とまでは行かずとも自粛が緩和されたとしても、Webで同時開催することで、遠隔地でも参加できます。
今後、今回のシステムが和歌山県の看護の質向上に一助となれば嬉しいです。

以上

和歌山病院
中井正美

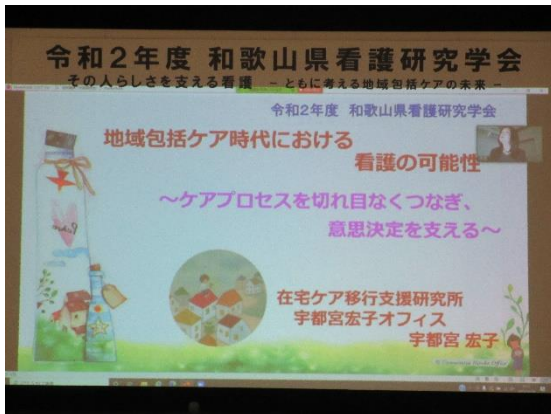
開会あいさつ



講演



講演



活発な意見交換



研究発表



サテライトでの聴講



シンポジウム



閉会挨拶



Nursing now キャンペーン

